

趣味の広場

瀧 光夫のこと

二十六回生 瀧（大森） 梢

昨年千里山会総会に往時の千里山に関わりのあるものがあれば提出してほしいとの案内がありましたので、夫の没後に見つけた千里山の風景を描いた二枚のスケッチのコピーを携えて東京に向かいました。今年に入って奥田陽一さんから、この二枚を今号の「趣味の広場」に掲載したい、ついでには作者の瀧 光夫の事を何か書くようにとの、ご連絡がありました。

瀧は千里山に住むこと四十年間に及び、千里山駅周辺のまちづくりにも関わり、第一噴水の改修も手掛けてはおりますが、私としては、千二小の卒業生でも無い身内の来歴を記すことを大いにためらいつつ、少しまとめてみました。

瀧は瀬戸内海の尾道の対岸の向島むかいしまにある父親の勤務先の広島文理科大学付属臨海実験所の官舎で生まれ育ちました。家は近くの村からも離れており、少年時にはまさに海に面した自然の中で暮らしていたと言っ

携わりました。この時偶然、書家村上三島氏と仕事上関わることになりました（「千里山」九号参照）

一九七二年に東京で自身の設計事務所を設立。家族に良い住環境をと考えて、一九七六年に千里山に居を構えました。千里山では、千里山まちづくり協議会設立前から関わりを持ち、千里山駅東のUR立て替えと時を同じくした吹田市の千里山駅周辺の整備事業の折には、最初は吹田市の依頼でまちづくり懇談会にアドバイザーとして参加していましたが、最後にはアドバイザーを降り、千里山の一住民の立場で意見を述べていたようです。千里山駅周辺の整備事業に関わるようになってからは千里山の東西をくまなく見て歩き、写真や案としてのドローイングを多く残しました。

瀧の作品は全国のあちらこちらにありますが大阪府の「服部緑地都市緑化植物園」の建物は千里山から歩いていくことが出来ます。作風は「土木・建築・造園」の一体化にこだわっているのが特徴で、緑の建築家と呼ばれてました。

昨年夏に、ほとんどの作品に関するドラフト・ドローイングはすべて京都工繊大学の美術工芸資料館に収蔵されました。唯一、第一噴水の改修に関する資料のみ吹田市立博物館に収蔵していただいています。

ていいでしょう。

小さいときから時間があれば絵を描いているが、海に出て泳いだり蛸や魚を獲ったり、友達と野山を駆け回っていたようです。中学生になってからは映画にも無中になり、島から渡し船に乗って尾道の映画館へ主に西部劇を見に通っていたそうです。自らも「生来記憶力まるでダメ、なぜか目に見えるもの、かたちあるものしか覚えられない。図・表・数式いづれも自分なりのパターンに描きかえて頭にいれる・・・」と記しているの、見ることに描くことですべてを記憶していたのでしょうか。後の設計の仕事も、思いついたら電車の中であろうと、すぐに手元にある本や週刊誌の余白に何かスケッチしていたのを思い出します。

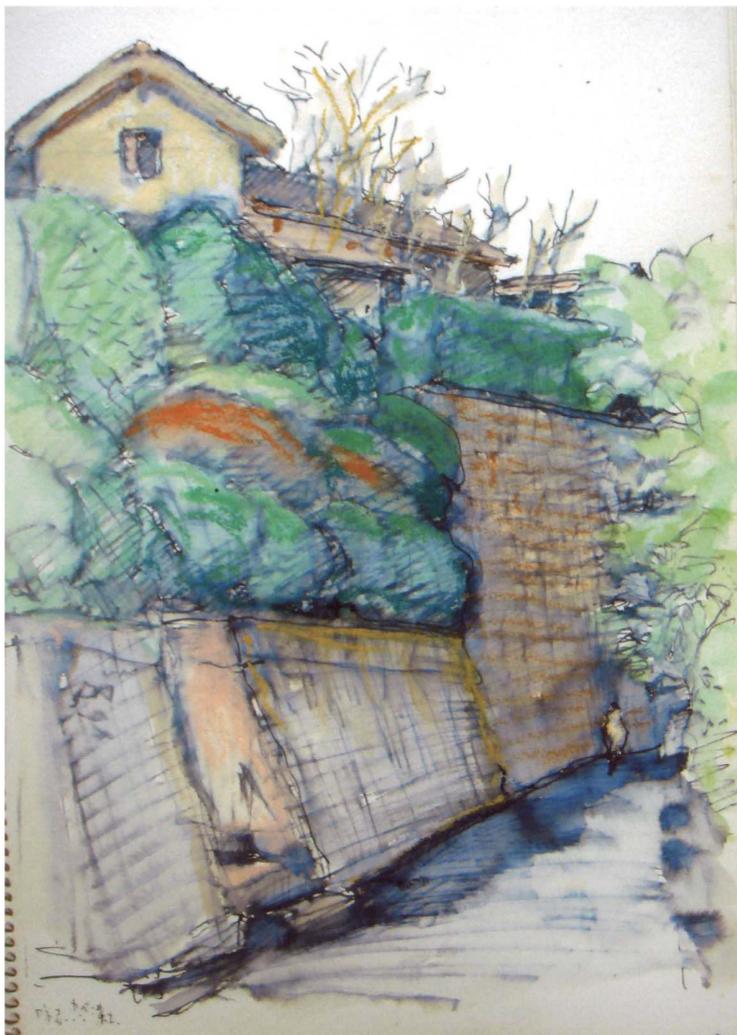
高校一年を終えたとき、父親の勤務地が福山に移り、初めてまちの中で暮らすことになりました。長じて京都大学・大学院で建築を学び、博士課程に進みだした頃、コロンビア大学からの奨学金を得てアメリカへ。一九六三年、同大学院を一年間で修了。教授に自分の建築設計事務所へ来ないかと請われ、ニューヨークで働き始めましたが、今度は日本に居る先輩から手伝ってくれと言われ、やむなく帰国。折から大阪万国博の構想がたち上がる頃とて、丹下健三氏のもと万国博会場建設のコアスタッフとして、関西から参加しておりました。自身も万国博ホールの設計や他の施設にも

主な受賞

- 一九七五年 第一八回建築業協会賞（BCS賞）
（愛知県緑化センター）
- 一九八三年 第二五回建築業協会賞（BCS賞）
（石川県林業試験所・展示館）
- 一九八八年 日本造園学会賞
（水戸市植物公園をはじめとする一連の鑑賞温室の設計）
- 一九九二年 日本建築学会賞（作品部門）
（シャープ労働組合研修レクリエーションセンターI&Iランド）
- 一九九三年 第三五回建築業協会賞（BCS賞）
（古今伝授の里フィールドミュージアム）
- 二〇〇三年 二〇〇二年度土木学会景観デザイン賞
（東岡崎駅南口広場「ガレリアプラザ」）
- 二〇〇四年 日本建築家協会二五年賞
（愛知県緑化センター）

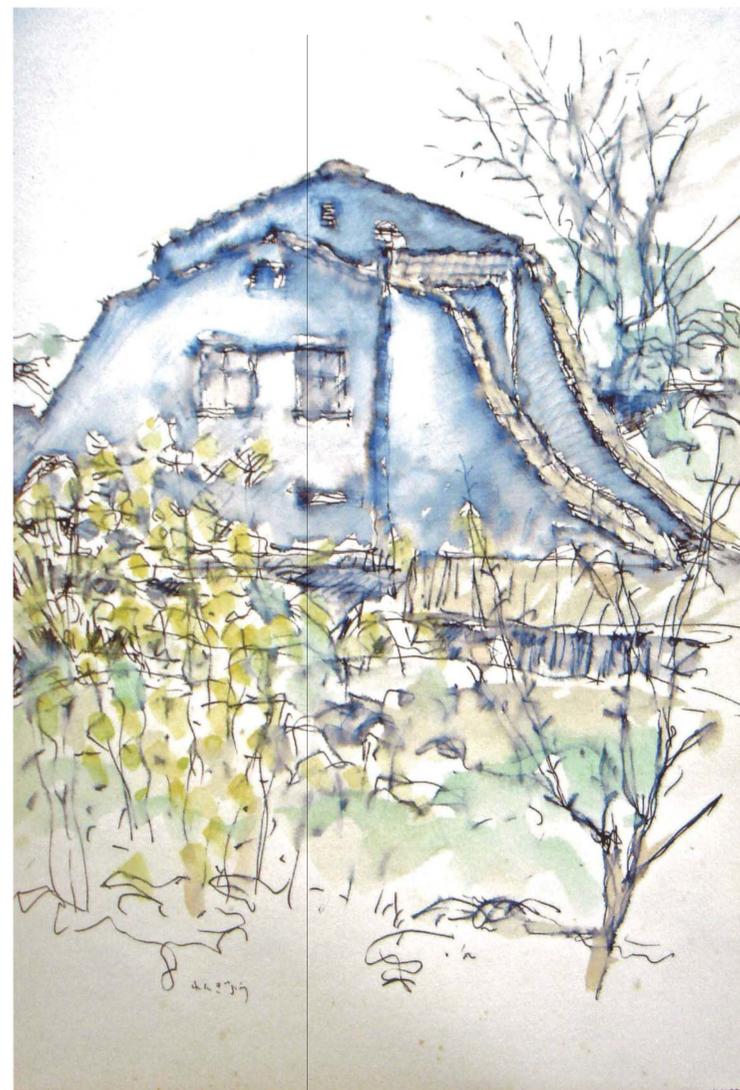
日本建築学会賞は建築界での芥川賞にも匹敵する最高の賞です。他にもここに書ききれない程、数々の賞を受けておられます。

以下3ページにわたり瀧光夫様のスケッチと瀧梢様の書を紹介させて頂きます。



千里山神社階段下の外壁

千里山は傾斜地に開発された住宅地のため、先ず土止めの外壁を造成し、頂上まで土盛りをして固めた宅地が沢山あります。絵の右手の外壁は中でも一番高く、台風の高雨で崩れることなく現在に至っています。この壁をよじ登った悪童は誰もいないはずで



千里山神社東側の住宅

マンサード様式の屋根の洋風住宅。20年ほど前に取り壊されました。千里山駅の旧駅舎もこの屋根の形でした。千里山住宅地開発当時のしゃれた景観が偲ばれます。



瑞 雲

26回生 瀧(大森) 梢 号 聴葉